

平成26年3月第1回幸田町議会定例会 報告 1/2

議会報告 3月定例会

定例会のあらまし

平成26年3月定例会は、3月3日に招集され、26日までの24日間の会期で開催されました。5名の名誉町民の推薦をはじめ、幸田町税条例の一部改正など単行議案15件、補正予算関係7件、当初予算関係9件と3議案を追加、計34件が上程され、いずれも原案通り可決しました。また、陳情1件を審議し、採択しました。



主な単行議案

= 幸田町名誉町民の推薦(5名) = (名誉町民第一号 26代 木村 庄之助さんの計6名となります。)

D	・川口 文夫氏 73才 元中部経済連合会 名誉会長	・大浦 猶之氏 81才 元町長
	・杉浦 昌弘氏 77才 名古屋大学 特別教授	・近藤 徳光氏 78才 元町長
	・本多 進氏 78才 元愛知県議会議員	以上5名

= 字の区域の設定と変更 = (相見特定土地区画整理事業の換地処分告示日の翌日から設定と変更)
 ・大字北鷲田を廃止し、大字相見(阿原・蒲原・腰丸など12の「字」)を新設。 など。

平成26年度当初予算案

円安や株高により景気を持ち直しがみられ、家計所得も増加傾向の兆しのなか、本町の税収も回復傾向にある。



	予算額	前年度比
一般会計	131億2000万円	7.4%
特別会計	66億7262万円	11.0%
水道事業会計	15億1306万円	43.4%
総額	213億 568万円	10.5%

※【一般会計】
 福祉や教育、防災・防犯など町行政運営の基本的な経費を計上した会計。
 ※【特別会計】
 国民健康保険・介護保険、下水道など特定の事業を行う独立した会計。

当初予算案の概要

「ハコモノ」造らず！ 防災力を強化！

「災害に強い」安心して暮らせるまちづくり



取り巻く経済環境は、景気回復傾向の中、家計所得も増加傾向の兆しなど経済が好転し、本町の税収も回復傾向だが、リーマンショック前の規模までには回復しておらず、依然として財政不足が続く状況。また、4月1日からの消費増税の駆け込み需要の反動など、景気回復の持続性が懸念されている。

歳入は、町税で前年比11.8%増の83億6800万円を見込む。法人町民税が前年比105%増の12億3000万円。借金にあたる町債発行は4000万円にとどめ、財政調整基金(町の貯金)から10億7700万円を取り崩し、歳入不足を補う形としている。

景気回復傾向

財政回復途上

歳出は、幸田中学校に防災備蓄倉庫設置：550万円、橋の修繕：2700万円等、「防災・減災を強化」する施策である。

「防災・減災」

議案質疑 一般会計

新年度予算は「災害に強く、安心して暮らせるまちづくり」が基本的考え方だが、住民目線での「防災・減災」の新規事業等の施策の進め方について問う。

住民目線で「防災・減災」の取り組みを！



- Q：救助車の「空気式救助マット」の使い方は？ 緊急時にどう使われるのか？
- A：火災などで建物から逃げ遅れたとき飛び降りる際の救命用マット。
一分程度で膨らみ迅速に対応可能。（270万円/台）
- Q：各区へ装備品として配備される「折りたたみ式リヤカー」は、どんな場面で使用するのか？ 又いつまでに設置するのか？
- A：緊急物資はもちろん、人も搬送できる。今夏までに各区へ配備する。
- Q：各区自主防災会の備品整備費（補助金）は、有効的に使えているか？
→防災のためにきちんと必要なものが揃えられているか？
- A：各区により温度差があるため周知していく（コンロやテント整備もPR）。
- Q：住宅屋内に設置する「耐震シェルター設置補助金」の申請状況（件数）は？
- A：平成25年度の申請実績は無し。新年度は、周知徹底をはかる。

安全で安心して暮らせることは、住民の一番の願いだ。命と財産を守るため、地域の声に沿った「災害に強いまちづくり」の着実な推進が必要だ！

＝トピックス＝



待望の23号バイパス開通！ 芦谷IC－蒲郡ICまで

H26年3月23日（16：00）から
（式典、ウォーキングなどイベント開催）



式典・テープカット

23号バイパス(名豊道路)＝ 全長:72.7km

<知立BP－岡崎BP－蒲郡BP－豊橋BP－豊橋東BP>

※投資対効果(B/C) 1.0以上必要 ⇒ 3.6



本町にとって、蒲郡ICまでの開通により、国道1号線・東名・新東名道路へのアクセスが向上し、交通安全・災害対策が、一步一步着実に進んでいます。